

安全研会報

全国学校安全教育研究会 会報 NO.13
東京都学校安全教育研究会 会報 NO.48

発行 全国学校安全教育研究会
会長 高汐 康浩



『安全教育のキーワードは「活用」と「発揮」』

全国学校安全教育研究会会長
東京都府中市立府中第八中学校長 高汐 康浩

本年1月1日に発生した能登半島地震では震度7を観測するとともに沿岸域では津波も観測され、その被害は甚大で広い範囲に及びました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。そして、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。日本は、その位置、地形、地質、気象等の自然的条件から、さまざまな災害が発生しやすい国土です。1923年（大正12年）に発生した関東大震災から100年、この地震では関東地方を中心に人的、物的に甚大な被害が発生しました。その後、毎年この日を「防災の日」とし、この日を中心とする「防災週間」には、全国的に防災に関する様々な行事が開催されてきました。首都直下地震については、今後30年で起きる確率は70%といわれています。小学校等の学習指導要領の総則には、「各教科等において身に付けた知識及び技能を**活用**したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を**発揮**させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること」という記述があります。当研究会においては、先に述べた、自然災害への備えを含め、交通事故や犯罪被害等、生活におけるさまざまな危険を予測し、自ら回避できる能力を育成しつつ危険場面に遭遇してしまったときの適切な対応力、実践力を培うことや進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を育成することを目指しています。「活用」と「発揮」をキーワードとして、安全教育に係るさまざまな課題を教科等横断的な視点で解決していく上で、重要なポイントは、安全教育の課題を各教科等でシェアして指導するという単なるコラボレーション的な取組ではなく、児童生徒等が、課題解決のために、各教科等で鍛えられた見方・考え方が個別の学習場面で十分に働かせることができるギミックを各教科等の授業や避難訓練などの取組に仕掛けることができるかという点です。総合的で汎用的な力を実生活や実社会で活用できるようにすること、つまり『実効的な安全教育』が最も重要であると捉えています。皆さんには、安全教育に係る先進的な研究や取組に触れ、それらを活用していただき、各学校等において『実効的な安全教育』の推進が行われることを期待しております。



「防災教育」と「災害伝承」の大切さを改めて考える

東京都学校安全教育研究会会長
東京都世田谷区立東深沢小学校長 佐々木 克二

はじめに、本年1月1日に発生した能登半島地震で、甚大な被害に遭われ、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。東京都学校安全教育研究会は、昭和51年発足以来、これまで47年間にわたり、学校安全教育の充実と発展を目指し、着実な研究と実践を積み重ね、大きな成果を上げて今日に至っております。現在は、全国学校安全教育研究会と一体となり、「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成」一危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために一を研究のテーマに位置付け、実践的・実効的な安全教育と安全管理の在り方に関する教育を推進しております。本年度は、2013（平成25）年10月16日に台風26号が伊豆諸島の大島（東京都大島町）に記録的大雨をもたらし、各所で土石流が発生して、36名が亡くなり、3名が行方不明となった土砂災害から10年の年となります。「伊豆大島 土砂災害から10年 記憶を語り継ぐ理由」というWEB動画に出会いました。東京都立大島高等学校（当時、最大の避難所）には、10年前の惨状を記憶している高校生たちによる「大島防災活動支援隊」が現在発足されています。「大島防災活動支援隊」は、避難者の「被害状況」「家族構成」等を読み、避難所運営を想定した図上訓練を行ったり、校内での避難訓練を実施したり、他島との防災交流研修などを行ったりしています。自分の被災した経験を生かし災害伝承と防災の担い手となり、大島や他地域での避難所で活躍できるように生徒の防災意識の向上に努めています。今年度は、関東大震災から100年の年でもあります。関東大震災は、我が国の自然災害史上、最悪の被害をもたらした災害です。自然災害と常に隣り合わせの我が国です。学校教育をもとより、意図的に「防災教育」「災害伝承」を家庭や地域の中で展開することが子供たちの命を守るために必要であると改めて強く感じております。

第47回全国・東京都学校安全教育研究大会にむけて

[令和6年2月9日(金) 会場：東京都葛飾区立花の木小学校]

葛飾区立花の木小学校長

伊藤 進

全国・東京都学校安全教育研究会の研究発表校及び葛飾区教育委員会教育研究指定校として令和4年度から2年間、安全教育の研究を進めてきました。研究主題「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ―危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために―」のもと、以下の3つの手立てについて、教職員一丸となって研究に取り組んできました。その成果を研究大会において発表します。

研修主題にせまるための3つの手立てについて紹介します。

【日常的な安全指導の充実】…基本的事項を確実に身に付けさせるために、日常的な教育活動の中で繰り返し指導します。

○生活指導夕会（夕会：勤務時間終了前に行う職員打ち合わせ）

…児童の様子について教職員で伝え合うとともに課題に対する指導や声かけの仕方について共通理解を図ります。

○朝の会・帰りの会…日々の児童の様子に応じて、安全教育の内容について繰り返し声かけ、指導を行いました。児童の安全に対する意識が高まったように思います。

【定期的な安全指導の充実】…身に付けた知識等を体験的に理解させるために指導します。

○避難訓練（月1回）…避難訓練について見直しを行って、より実際に近いかたちで訓練を行いました。校舎が火事になったら校庭にはいられないから、隣の公園にすぐに避難すること、地震が起きて机の下などに一次避難した後すぐに校庭に集まるのではなく、余震の可能性も考えて教室で待機することなど、実際の被災場面を想定して訓練しました。

訓練後には児童が振り返る場を設定して、安全に対する理解を深められるようにしました。

○安全指導日（月1回）…年間計画を作成して、そのねらいに合わせて資料（プレゼンテーション・指導略案）を作成し、毎月安全指導日の充実を図りました。作成したプレゼンテーション資料をもとにして学年ごとに工夫して安全指導を進めました。

【学習指導の充実】…自分や他者の安全を守るためのよりよい行動等をじっくりと考え、追究させるために指導します。

○各教科・領域との関連…日常的な指導はもちろんですが、教科・領域の授業を通しての安全教育を進めてきました。教科・領域の内容の中にも安全教育についての内容がたくさん含まれています。授業を通しての安全教育について年間を通して計画的に進められるようにしました。研究大会においても、全学級で研究授業を公開しますので是非ともご覧ください。

○関係諸機関との連携…セーフティ教室、交通安全教室、歩行訓練など、近隣の警察署や消防署などと連携して取り組みました。児童が直接体験を通して体験的に学習できるようにしました。



学ぶ姿勢を育み持続可能な安全教育の実現をめざす ～凡事徹底・凡事一流～

高知県土佐市立蓮池小学校長 吉門 直子

本校は、研究テーマを安全教育とし、安全教育の全領域（災害安全・交通安全・防犯を含む生活安全）を網羅し、安全教育の日常化をめざした実践研究に取り組んでいる。スローガンは「凡事徹底・凡事一流」。全学級による授業実践を通じた安全に関する指導方法の開発、関係機関、大学等の知見を活かし、保護者や地域と連携した取組の充実を図ることで、児童に安全に関する資質・能力を育成することを目指している。また、新聞を活用した「NIEタイム」等の活動も継続している。

◆生活安全・災害安全・交通安全を融合させた実践 ～学級活動「安全に登下校しよう」～

1年生の視点の一つ「危険に気付き、安全な行動について考える」の実践において、登下校の仕方について振り返り、特に、雨の日の写真から雨の日の危険について考えた。その際、用水路を覗いている写真を提示したり、傘の差し方を実演したりしながら、児童が具体的にイメージできるようにし、生活安全・災害安全・交通安全の観点から雨の日の安全な歩き方について話し合い活動を行った。参観日にも「安全に生活しよう」の授業を設定したことで、保護者からも「家庭でも話していきたい」という声が聞かれ家庭との連携につながった。



◆交通安全啓発動画の作成 ～「交通安全マスター」「ヘルメット着用CM」

4年生は、総合的な学習の時間に交通安全をテーマとして取り組んでいる。令和3年度は、交通安全を啓発する動画「交通安全マスター」を作成した。令和4年度は、道路交通法の改正により自転車乗車時のヘルメット着用が全ての年齢に努力義務化されたことに着目し、成果のまとめとして、ヘルメット着用を啓発するCM動画を作成した。



2つの動画は、YouTubeで公開している。また、高知県教育委員会のWEBサイトや高知県運転免許センターや各警察署等でも活用していただいている。

◆「防災小説」～国語科で身に付けた書く力を生かして～

6年生は「南海トラフ地震に備えよう。自分のできることについて考えよう」というテーマを設定し、これまでの国語科の学びを生かして「防災小説」を書くことに挑戦した。

（「防災小説」は、慶應義塾大学の大本聖子先生が提唱され、本県の土佐清水市の中学校で行実践がある。）物語は、「20XX年（近未来）の12月16日午後4時42分、南海トラフ地震発生。その時・・・」という設定で執筆。唯一のルールは「物語は必ず希望を持って終えること」。

これまで、国語科で培ってきた書く力を発揮してオリジナルの物語をつくる活動は、6年生にとっても意欲を持って取り組むことができ、地震発生直後から、生き抜く自分の姿を防災小説に表すことで、災害を自分事として考えることができた。

【今後の展望】

安全教育の成果をいかに図るか、安全教育の効果検証の方法を模索している。児童の意識や行動変容を見取ることとあわせて、「児童に何が身に付いたか」という視点で、成果指標を整理することに取り組むたいと考えている。

第48回全国・東京都学校安全教育研究大会

研究主題 自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる児童の育成
～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～

東京都北区立堀船小学校長 松本 麻巳

令和5・6年度北区教育研究協力校も受け、2年間に渡って安全教育の推進に取り組んできた成果を発表します。地域の環境や児童の発達段階・実態を踏まえ、家庭、地域、関係諸機関と連携を図ることに重点を置いて研究をすすめています。たくさんの方にご参会いただいて、ご指導、ご助言をいただけましたら幸いです。よろしくお願いいたします。

〔第48回全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会〕

日時 令和7年2月14日(金) 開催

場所 東京都北区立堀船小学校

令和5年度 学校安全教育研究会 組織

特別顧問 戸田 芳雄（日本安全教育学会理事長・学校安全教育研究所顧問・明海大学客員教授）

顧問 四十九院公洋 清水豊 岩切玲子 久富美智子 池田實 小林元子
矢萩恵一 沢田明 芳森信夫 矢崎良明 澤野明夫 井口信二
永山満義 平松有理子 桶田ゆかり 鳥塚恵子 木間東平

<全国学校安全教育研究会>

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
会長	高汐 康浩	東京都府中市立府中第八中学校	事務局	長岡 佳孝	(山形県) 学校安全教育研究所教授
副会長	渡部佳代子	東京都江東区立大島幼稚園	事務局	津布久郁夫	(東京都) 元全国学校安全教育研究会事務局長
副会長	伊藤 進	東京都葛飾区立花の木小学校	事務局	山田 誠一	元 東京都学校安全教育研究会副会長
副会長	角田 成隆	東京都足立区立足立小学校	事務局	山田 明	元 東京都学校安全教育研究会副会長
事務局長	伊藤 淳	東京都府中市立府中第五中学校	事務局	原野 隆	元 東京都学校安全教育研究会研究部長
事務局顧問	木間 東平	東京都葛飾区立柴又小学校	会計部長	吉羽 優子	東京都文京区立柳町こどもの森柳町幼稚園
事務局	本多 亨	千葉県千葉市立貝塚中学校	監事	村田有美子	東京都江東区教育委員会事務局
事務局	木次 勝義	(島根県) 学校安全教育研究所教授			

<東京都学校安全教育研究会>

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
会長	佐々木克二	世田谷区立東深沢小学校	研究部員	関谷 洋平	府中市立府中第二中学校
副会長	渡部佳代子	江東区立大島幼稚園	研究部員	橋詰 貴	町田市立南成瀬中学校
副会長	原田 英徳	葛飾区立西小菅小学校	研究部員	中野 健	国分寺市立第十小学校
事務局長	藤咲 孝臣	府中市立本宿小学校	研究部員	小野 正門	大田区立矢口東小学校
事務局次長	坂下 惣栄	東村山市立東村山第一中学校	広報部長	松本 麻巳	北区立堀船小学校
事務局員	小俣 弘子	調布市立富士見台小学校	広報部員	南 美貴	新宿区立西新宿こども園
事務局員	三澤 亘潤	西東京市立保谷第二小学校	会計部長	立石 晃子	荒川区立南千住第二幼稚園
事務局員	西原 洋一	大田区立矢口東小学校	会計副部長	吉羽 優子	文京区立柳町こどもの森柳町幼稚園
研究部長	坂井由利子	国分寺市立第十小学校	会計部員	千葉 千里	府中市立府中第二中学校
研究副部長	渡邊 利枝	杉並区立東田中学校	会計部員	小川 雄也	武蔵野市立第四中学校
研究部員	中澤 郁実	杉並区立浜田山小学校	監事	村田有美子	江東区教育委員会事務局
研究部員	清水 洋一	八王子市立第一中学校			